

平成19年度 子どもたちの確かな学力育成のための検討委員会(第1回) 会議録

1 日 時 平成19年4月19日(木) 午後2時30分～午後4時50分

2 場 所 生駒市役所401・402会議室

3 日 程

(1) 新委員の委嘱状交付

(2) 教育長挨拶

(3) 委員長の選出

(4) 開会

① 前回(平成18年度第6回)委員会会議録の承認について

② 生駒市預かり保育実施要綱(案)について

③ 30人学級について

・効果と課題について

・今後の方向性について

④ その他(次回開催日の調整)

4 出席者

(委員)

委員長 岩田 憲一

副委員長 春見 祥司

委員 阿部 久美子

委員 田中 年男

委員 藤本 誓子

委員 西村 徹

委員 井上 宝

委員 森脇 彬

委員 朽木 丈二

委員 辻野 トシ子

委員 正田 博司

(事務局)

教育長 早川 英雄

教育総務部長 中田 好昭

教育総務課長 峯島 妙

教育指導課長 西井 久之

教育総務課課長補佐 辻中 伸弘

教育指導課課長補佐 井上 廣

教育指導課指導主事 松田 由起子

教育総務課学務係長 河島 嘉明

教育総務課 楠下 崇子 (書記)

議 事 等 (要 旨)

- 委嘱状の交付
- 教育長挨拶
- 委員長の選出 (互選による選出)

① 第6回委員会会議録の承認等について

前回会議録の承認を得るとともにホームページの掲載について報告。

② 生駒市預かり保育実施要綱 (案) について

・前回、預かる際の要件として「就労」と「就学」を認めるが、各定義については現場の意見を聞きながら各園で共通認識を持てるよう詰めてもらいたいとお願いした。その後どうなっているか。

・園長会を通じて現場の意見を聞いているところなので、整理ができればお知らせしたい。

・利用料の徴収や領収書の発行等は、各園で対応することになるのか。

・徴収方法はその都度(毎回)でも、後払い(月ごと)でも、園でやりやすいよう考えていただきたい。そのほか、申請の受付期間や領収書の発行等も、事務局より現場の先生方で決めていただくほうがいいのではないかと。

・園によって差が生じて困るし、現場もたいへんだと思う。園に任せるにしても、ある程度事務局が決めておくべきではないかと。

・人員措置について確認したい。預かり保育は園長、主任も含めて全員で取り組んでいくということによいか。また、保育の保障ということを考えて、増員等の考慮はしていただけないか。

・預かり保育も教育活動の一環であり業務であると認識しており、全員で取り組んでもらう。教材研究や翌日の準備等を心配する思いは理解できるが、他市の状況を見る限りでは、預かり保育の実施に伴う人員増はない。本市としても、実績を確認したうえで必要なら検討したい。

要望があるなら組合交渉等の場で意見を聞かせていただく。

・実績を見てからということも理解できるが、現場の切実な思いも分かる。実際たいへんなのは現場の先生方だし、ストレスがたまって良い教育ができないというのは困る。事務局には現場の意見を聞く機会を多く、また早めに持っていただくようお願いする。

③ 30人学級について

○ 効果と課題について

・今日の会議では、少人数教育のメリット・デメリットについて、再確認をお願いした

い。先進地事例を検証すると、本検討委員会と重複した意見も多くあるが、一方で、これまでまったく出ていない意見もあるので、それらをどうするか考えていただきたい。

- ・「教室の空きスペースを有効活用することで多様な学習形態が可能」等、空間に着目した意見は、そのとおりだと思う。

40人のクラスでは一斉に前を向く講義形式しかありえないし、机の間を巡回するのもたいへんだ。しかし、人数が少なければ机を端へ寄せて広い空間を作り、読み聞かせをしたり、新聞を広げたりと工夫して使える。また、情報機器を活用した授業にも機敏に対応できる。

- ・空間があるために、走り回る子どもが出てきたり、そういう子どもが、1人、2人と増えるような心配はないか。

- ・そういう子どもは、広さには関係なく同じではないか。ただ、仮にそういう子どもが3人いれば、学年で2クラスなら、内2人は同じクラスになるが、3クラスにできれば1人ずつに分けられる。また、クラス数が増えれば先生が増えるので、外で待機するとか、サポートに回るとか、ケアしていくうえでもありがたい。

- ・中学校や小学校高学年に限られると思うが、新たに加えられるものとして、先生が教えやすいとか保護者が安心というだけでなく、学級委員がリーダーシップを取りやすいというのはどうか。子どもの側の視点でメリットを出せたらいいと思うのだが。

- ・個性のこともあるので、少人数だからリーダーシップがとりやすい、子どもが能力を伸ばしやすいということは一概に言えないと思う。少人数では、やはり競り合うということが少なくなる。

しかし、逆に言うと、おおらかで意地悪もないし、人を押しつけて・・・ということもない。

教師の立場からは、個人ノートや2者懇談など、きめ細かに対応できるし、子どもにかける愛情やエネルギーが違う。

- ・では、事務局の方でもう一度整理をしていただくようお願いする。

— 休憩 —

○ 今後の方向性について

・次回、2次報告案を提出したいと考えており、実施にあたっての整備を、という思いでまとめたものをお手元に配布している。皆さんの意見をお聞きし、調整して次回の2次報告案に反映させる。

・中学校だけ意見が羅列されているので、小見出し（積極的な意見、消極的(慎重)な意見)をやめてはどうか。

本文に全体の方向性（小学校低学年は少人数学級、小学校高学年及び中学校は少人数指導）を入れれば、中学校だけ意見を出さなくても体裁が整う。

・「まずは小学校低学年から」ということは理解しているが、中学校は後回しという形で終わるのではなく、中学校も前向きに進めていくというニュアンスにしてもらいたい。

・せっかく30人学級をやるのだから、学年が変わるたびに人数がころころかわるのはよくない。予算や人材確保の件は承知しているが、1年生で導入したら、そのまま30人前後で最終学年までいけるように考えて欲しい。

・1クラス40人の学年があり、保護者からどうにかならないかといわれたが、このままだと言い切っている。1年生だけ30人というのは、保護者の理解を得られるだろうか。

・私の学校では、昨年度の1年生は1クラス30人以下だったが、今年度は40人だ。1学年80人だと、30人学級なら26～27人の学級だが、2年生になったら、40人の学級になる。やはり、次の学年で急に人数が増えることに対して保護者の理解を得ることは難しいと思う。

・人材については、誰でもいいというわけではない。人の確保も難しいし、資質も問題になる。特別支援教育のこともあるし、他の学年や中学校も・・・となると、きりがない。

人材確保できるのは、小学校1年生分が精一杯だし、一斉ではなく年次的に実施することになる。

学級編制で学年進行を望む保護者の思いや、それを抑える現場の校長等の苦労は承知しているが、理解を得られるよう努めたい。

・では今日の意見を踏まえて事務局のほうで調整し、2次報告案の作成をお願いします。

④ その他（次回開催日の調整）

・次回の会議ですが、5月にお願いしたい。

- ・では、次回は5月21日開催とし、本日はこれにて閉会とする。

以上